

ハイライト:

教員採用試験を受験した教育学部生全員が一次試験・二次試験共に合格しました。合格率100%でした。



宮崎国際大学教育学部ニュースレター

教員採用試験等について学生全員が自分の夢を勝ち取りました！

副学長・教育学部長 福田 亘博



教育学部は、平成26年度に開設し現在に至るまで、二度にわたる教育カリキュラムの大幅な見直し（コアカリキュラムへの対応、必修／選択科目の見直しやICT教育の充実など）を行った他、教員採用試験現役合格のための教員採用試験対策講座等を整備してきました。

また、毎年の教員採用試験一次・二次試験の現状を調査・分析し、対策について不断の改善を図りつつ、学生個々に合わせたオーダーメイド的な指導・助言を行ってきました。その結果、今年度下記に記載した通り、ついに教員採用試験現役合格率100%を達成しました。

幼保コースでは、保育教諭を取得できる教育カリキュラムとこれに連携させた保育者養成実践講座が整備・改

善され、学生の皆さんは希望通りのこども園・幼稚園・保育園等に就職をすることができました。その他、県内市役所（幼保職・一般行政職）や社会福祉法人を希望する学生にも対策を講じ確実に合格することができました。

以上のように、学生の将来の希望に沿って素晴らしい成果を挙げてきました。まずは、学生の頑張りを称賛したいと思います。これらの対策講座等を支えた学内外の講師陣のご尽力には本当に感謝しています。

今後とも学生の将来の夢の実現を支援するために、不断の改善を行っていく予定ですので、引き続き相変わらずの皆様のご支援とご協力をいただけますようお願い申し上げます。

令和5年度公立学校教員採用試験 現役学生26名合格！！小学校合格率100%

今年度の公立教員採用試験の一次試験合格者は、小学校が24名、中学校英語科は3名でした。8月から9月にかけて二次試験が行われ、小学校は24名全員が合格し、中学校英語は2名が合格しました。特に、今年度の小学校の合格率は100%でした。

学生教職支援センター長 有嶋 誠

来年4月には、本学卒業生26名が教諭として県内外の小・中学校に勤務することになります。なお、宮崎県の中学校英語科は8.1倍の超難関でしたが、二次試験合格者7名のうち本学が2名を占めました。

宮崎県小学校	教育学部 現役学生 17名合格	教育学部 卒業生 2名合格
大分県小学校	教育学部 現役学生 4名合格	
鹿児島県小学校	教育学部 現役学生 1名合格	
熊本県小学校	教育学部 現役学生 1名合格	
千葉県小学校	教育学部 現役学生 1名合格	
宮崎県中学校	国際教養学部 現役学生 1名合格（英語）	宮崎国際大学 大学院 国際教養研究科 現役学生 1名合格（英語）
熊本市小学校	教育学部 卒業生 1名合格	
宮崎市役所	教育学部 現役学生 1名合格（保育士・幼稚園教諭）	
都城市役所	教育学部 現役学生 2名合格（一般行政）	

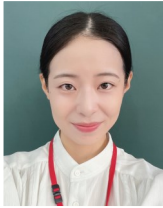


宮崎国際大学マスコットキャラクター ミウ

卒業した先輩からのメッセージ

今、大切にしてほしいこと

宮崎市立加納小学校 教諭 落合 祐希
(令和5年3月宮崎国際大学教育学部卒業)



私は現在、宮崎市立加納小学校で5年生の学級担任をしています。慌ただしくも、子ども達と楽しく充実した毎日を過ごしています。

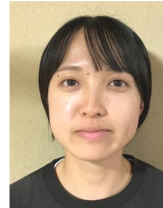
大学在学中から私は、すべての子どもにとって「居場所」や「心の拠り所」になる学級づくりを目指していました。その思いは今も変わらず、子ども達が成長を実感したり、自他のよさを認め合ったりする機会を設け、一人一人の頑張りとよさ、笑顔が輝くよう努めています。

学習指導や生徒指導は、試行錯誤の連続です。うまくいかない時こそ、立ち止まって大学での学びを思い返すようにしています。講義中の学びを机上の空論にしてしまうのはあまりにも惜しいです。理論を実践に活かすという視点を持ち、日々の講義に取り組めば、きっと将来、皆さんの力になります。

どんな教師になり、どんな授業をして、どんな学級にしたいのか、自分の思いと向き合い、将来を見据えながら今やるべきことを考えて過ごすとうよいと思います。

学び続ける事を大切に

ひろせ幼稚園 教諭 手島 実祐
(令和4年3月宮崎国際大学教育学部卒業)



私は現在、2歳児クラスの担任をしています。子ども達が自分で出来るようになったことを一緒に喜び合えることにやりがいを感じながら楽しく過ごしています。

保育をする中で、子ども達との関わり方や保護者対応等に悩んだりしますが、先輩の先生方や同期からのアドバイスを頂いて、日々学び続けています。

日々の園生活の中で、簡単なゲームや手遊び等を沢山知っておくと活用出来ることを実感しました。活動の合間で子ども達が退屈しないように、また、園生活がより楽しくなるためにも必要だと感じました。私のクラスでは、手作りのスケッチブックシアター等を行うと「まだ見たい!」と楽しんでくれています。子ども達の興味がある物を題材に作ってみるとより楽しめると思います。

就職して2年目になりますが、日々発見し学ぶことが沢山あります。後輩の皆さんも、日々学び続けていくことを大切に、様々な事に積極的に挑戦してみてください。

就職内定

みんなの力で得た内定

教育学部4年 米良 和(宮崎西高等学校出身)



私は、宮崎県社会福祉事業団から内定を頂きました。この事業団は10以上の施設を持っており、保育園や幼稚園ではなく、児童養護施設や障がい児施設の保育士として働くことになります。園ではなく施設を選んだ理由は、大学で様々な課題(虐待や貧困、障がい等)を抱えた子どもがいると知り、その子どもを支援したいと感じたからです。

就職試験は面接のみだったため、様々な先生に履歴書の添削をお願いしました。そして、宮崎国際大学のキャリアサポートセンターで面接対策をしていただいたことで、不安を軽減して本番に臨むことができました。

私の就職する施設は通所ではなく入所であるため、子どもたちの生活の場です。保育者と子どもが密接に関わり合うため、丁寧な信頼関係の構築が必要とされています。子どもとの関わりの中で関係を築き、側にいるだけでも安心感を与えられるような保育士を目指します。

公務員試験を振り返って

教育学部4年 川越 花音(宮崎北高等学校出身)



都城市役所の職員採用試験(一般事務)に合格することができました。一次試験はSPI試験で、対策として問題集を使って勉強をしました。SPIの勉強で心掛けたことは、苦手をなくすこととスピードアップをすることです。SPIはテストセンターでパソコンを使って受験します。問題を解かないと次の問題に進めず、また戻って見直すこともできません。問題を解き慣れることで本番も焦らずに取り組みました。

二次試験、三次試験は面接でした。私はヤングジョブに行き、面接指導をしていただきました。試験に向けては先生方や公共の施設など多くのものに頼って、友達と協力し合うことが大事だと感じます。面接で伝えたい内容などを共有し、意見をもらうことで、何を伝えたいのか、どんな強みがあるのか、自分では気付けないことに多く気付くことができました。他者に頼り、他者に学ぶことで成長し、能力を高めることができました。

今後は、都城市民から信頼される公務員を目指して、ボランティアや地域活動に参加し、必要な講義を受講するなどして学び続けていきたいです。

学生作成記事

教員採用試験に合格した4年生から後輩へのアドバイス

教育学部3年生2名が、教員採用試験に合格した4年生4名にインタビューをして記事を作成しました。

教員採用試験に向けて

一次試験に向けては、対策講座で配付された資料が最も役に立ったため必ず出席するべきです。また、対策講座の資料に加えて参考書を1冊持っておくとより理解を深めながら勉強を進めることができます。

勉強をする際は、苦手な内容に時間を費やすなど、勉強効率を考え、とにかくたくさん問題を解くという計画を立てることが大切です。そうすることで、問題を見ただけで答えが分かるようになってきます。

二次試験に向けては、集団で練習していく中で、オリジナリティを意識して模擬授業を構成するようにしました。模擬授業についての質問は、教科指導、学年に対するの指導内容、ICTのよさなどに関する内容であったため、事前の教材研究をしっかり行う必要がありました。特に、ICTについては、教育実習でのICT活用の経験が生きるため、積極的に取り入れ、記録しておくとういいます。

面接に向けては、まず、簡潔に答えることを意識して練習しました。事前準備としてキーワードをしっかり押さえておくこと、本番と同様に、受験者1人、試験官3人で練習を行うこと、さらにメンバーを固定せずたくさんの友人とも練習を行うことを心掛けました。練習の様子を撮影することで、目線の配り方や話すときの癖などを分析し、修正できるようにしました。

推薦者の枠が増えた今年度

今年度の宮崎県教員採用試験では大学推薦枠が増えました。推薦を受けられるかどうかに関わらず、試験勉強

は教員になる力を身に付ける機会であるため、最大限の努力をもって学習に励むようにするとよいです。

後輩へのアドバイス

- ・受験は団体戦です！みんなで高め合って頑張ってください！
- ・県外受験の人は、受験する県の出題傾向をつかみ、必要な資料等を手に入れておくなどの準備をすることが大切です。
- ・教員採用試験の合格は通過点であり、教員になった後にも役立つと思って勉強することが大切です。
- ・みんなで頑張っていくことが重要です。いい意味で周囲の環境に影響されることなく、意識をそろえて頑張ってください。スイッチを入れるなら今しかありません！
- ・1人ではなく、「みんなで」という意識で頑張ってください！自分だけではないという意識をもつと、勉強も継続できます。みんなで一緒に頑張ってください！



後列左から教育学部4年縄田要偲(別府鶴見ヶ丘高等学校出身)、日下玲慈(国分高等学校出身)、3年久保田亘喜(都城西高等学校出身)、前列左から4年大村すず(宮崎学園高等学校出身)、稲口葵(宮崎西高等学校出身)、3年黒木利咲(宮崎西高等学校出身)

教育学部教員より

学生の成長を願って

特任教授 富高 啓順



本年度3月に県立宮崎南高等学校を退職し、4月に着任しました。リベラル・アーツを学ぶ大学として30年近くにわたり地域のニーズに応えてきた本学に勤務できることを誇りに思っています。学生教職支援センターの一員として、教員採用試験対策などの支援や英検・TOEICの指導を行っています。大学1年目の最初の授業では、3月に一緒に「卒業」した生徒がクラスに10人以上いて、ほどよい緊張感

をもちながら英語4技能のバランスの取れた授業を心掛けました。

ところで、研究室のドアを開けていると、休み時間に学生の話し声が聞こえてきます。国際教養学部はもちろんのこと教育学部の学生にとっても、教室内で学んだ英語が留学生である友達やネイティブの先生たちとのコミュニケーションに活かせる素晴らしい環境に自分たちがいることに気づかされます。伸び伸びと学ぶ学生が、4年間で大きく成長することを楽しみに毎日過ごしています。どうぞよろしくお祈いします。

(担当科目：英語Ⅰ・英語Ⅱ)

〒889-1905 宮崎県宮崎市清武町加納丙1405番地
電話:0985-85-5931 FAX:0985-84-3396



国際教養学部 比較文化学科
教育学部 児童教育学科

EVENT情報

週末キャンパス見学会&相談会～MIU NOW～

開催日時：2024年1月20日(土) 10:00-12:00

内容：学部紹介、学部ごとに在学生との交流、キャンパスツアー、入試相談 など

週末キャンパス見学会&相談会～受験対策～

開催日時：12月2日(土)、2024年2月17日(土) 10:00-12:00

内容：学部紹介、入試相談、受験対策講座、キャンパスツアー など

春のミニオープンキャンパス

開催日時：2024年3月2日(土) 10:00-13:00

内容：学部紹介、交流カフェ、個別相談 など

個別の見学会・相談会も受け付けております。ご希望の方は事前に入試広報部までご連絡ください。

オープンキャンパス・週末
キャンパス見学会&相談会
についてはこちらで詳細を
ご確認いただけます。



入試広報部からのお知らせ

お問合せ先

TEL 0120-85-5931

MAIL admissions@sky.miyazaki-mic.ac.jp

LINE相談受付中

「入試制度について知りたい」など、見学会に行くことが出来ない、という高校生・保護者の方のために、公式LINEアカウントのチャット機能をオープンしています。お気軽にお問合せください。



QRコードを讀
み込んでお友だ
ち追加してね!



特別支援教育学生ボランティアを経験して

教育学部 4年 前川 和斗(熊本西高等学校出身)



特別支援教育学生ボランティアを宮崎市内の複式学級のある小学校で行いました。私は大学の講義の中で、複式学級での指導方法や学級経営の仕方を学んだことがありましたが、実際に見たことはなかったのでとても新鮮な経験でした。

高学年では5年生と6年生が一緒に教室で授業を受けており、異年齢集団ということを活用して授業を行っていました。そこでは、子ども同士がリトルティーチャーとして教え合う協働的な学びがありました。また、少人数を活かしたメリハリのある関わり方や指導・支援の仕方を学ぶことができました。

この学校は、児童数が少ないということもあり児童同士や先生との距離がとても近く、学年関係なく仲が良いという印象を受けました。宮崎県教員採用試験に合格した私には、複式学級のある小学校勤務ということも予想されるので今回の学びは将来につながる良い経験になりました。

特別支援教育学生ボランティア派遣事業

学生教職支援センター長 有嶋 誠



文部科学省の調査によると「通常学級に在籍する小・中学生の8.8%に、学習面や行動面で著しい困難を示す発達障がいのある児童生徒がいる」ことから、将来教員を志望する学生にとって特別支援教育の現場を体験することは貴重な学びとなります。

「特別支援教育学生ボランティア派遣事業」は、宮崎市教育委員会が主催する事業です。本学から派遣される71名の学生は、教育学部と国際教養学部で教職課程を履修している3・4年生です。学生は、2～5名で編成され、市内の小・中学校25校を訪問してボランティア活動を行います。

ボランティア学生の支援の対象は障がいのある児童生徒や学校生活を送る上で学習面等において困難さを有する児童生徒です。学生は、学級担任の指導を受けて特別支援学級に在籍する児童生徒や通常学級に在籍する特別な支援が必要と思われる児童生徒へきめ細やかな支援を行います。

本事業は、教員を志望する学生にとって、障がいのある児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援する特別支援教育の実際を体験する貴重な機会となっています。